



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学 国際文化研究科 附属言語脳認知総合科学研究センター



GSICS
TOHOKU UNIVERSITY

2018年度 第3回 公開講演会

場所：東北大学 川内キャンパス 文学研究科棟 701教室

日時：2018年10月29日月曜日 14:40 ~ 16:10



心理言語学への言い間違いの貢献、 これまでとこれから

寺尾康先生（静岡県立大学）

「故意にではない発話意図からの逸脱」と定義される言い間違いは、突発的で稀な言語現象でありながら、そこに観察される規則性は意識による統制が及ばない発話処理作業の規則性の齟齬を反映したものと注目されてきました。

講演前半では、言い間違いの分析の基本要素を解説したあと、これまでその分析結果が言語単位の実在性の検証と言語産出モデルの構築にいかによりてきたのかをまとめます。後半は「うならい(←うらない)」、「ちばなをひらす(←火花を散らす)」のような音韻的交換と呼ばれる言い間違いを詳細に分析した結果を報告したうえで、この誤りには音声面、音韻面の諸要因が絡み合っており、それらを解きほぐそうとする努力は言語産出モデルの音韻部門解明に向けての糸口になることを示します。とりわけ、音節とモーラという単位をモデルのどこにどう配置するのかという問題について良い示唆を与えてくれるように見える点を取り上げたいと思っています。最後に、まだ準備の段階ですが、吃音研究からの成果も引用しながら言い間違いにまつわる諸要因の整理は最適性理論をはじめとする音韻理論にも貢献できるのではないかと可能性についてもふれたいと思います。

本格的に注目されてから120年、言い間違いというデータはまだまだ「掘り尽くされた金脈」ではないという展望が伝われば幸いです。

～寺尾 康(てらお やすし)先生～

静岡県立大学国際関係学部国際言語文化学科、同大学院関係学
研究科比較文化専攻教授。

ご専門は心理言語学、音韻論、認知科学。言語産出メカニズム
(とくに言い間違い)、言語獲得過程の解明の研究、言葉への気
づきを活用した言語教育。

『言い間違いはどうして起こる?』(2002年、岩波書店)、Speech
errors (The Handbook of East Asian Psycholinguistics, 2006, CUP)
等著書・論文多数。

申し込み不要・入場無料
Admission Free

お問合せ
東北大学大学院文学研究科言語学研究室
木山幸子 (Sachiko Kiyama) ✉ skiyama@tohoku.ac.jp

東北大学 川内南キャンパス
文学研究科棟(地図C13)701教室



仙台市青葉区川内27-1
地下鉄東西線国際センター徒歩5分



主催：東北大学大学院国際文化研究科附属言語脳認知総合科学研究センター
後援：東北大学大学院文学研究科言語学研究室